

5 各施設の仕様

基本計画の『整備イメージ』をもとに、区民の意見・要望を反映し、また、専門家などによる検討を行いました。

(1) 安全・安心の公園づくり

ア 震災対策(11~12頁の図面参照)

従来の公園では、マンホールトイレ、かまどベンチを数ヶ所配置するのが一般的でしたが、東日本大震災を受け震災が発生した時の利用を想定し、防災施設の数や配置を充実させました。また、時系列での利用の変化を想定し、震災発生から3日目まで、4日目から3週間、3週間以降の利用というように、段階ごとの利用を想定しました。

防災資材倉庫

- 公園の北角(150㎡程度)と南東(50㎡程度)の2ヶ所に分散させて配置します。

自然エネルギー照明

- 太陽光発電(一部風力発電併用)の照明灯(LEDランプ)を、出入口・マンホールトイレ・防災井戸・階段付近に設置します。
- 夜間の避難誘導に活用しますが、平常時でも夜間照明の一部として活用します。

誘導灯

- 広域避難場所への主な経路には、路面埋込み式の誘導灯(太陽光発電)を設置します。

防災井戸

- 公園の中央、東側、南東側の3ヶ所に井戸を設置します。
- 平常時、中央の井戸は日本庭園の池の水源として活用します。また、その他の井戸は、子どもの水遊びにも利用できます。

マンホールトイレ

- 公園内の3ヶ所に分散(20基・30基・10基)して設置します。
- 日本庭園に近い2ヶ所の水源は井戸と日本庭園内の池、東側は井戸を活用します。

かまどベンチ

- 平常時はベンチとして利用し、かまど使用時は座面を外して使用します。

消防訓練スペース

- 消防団の訓練スペースとして、園路は長さ約100m、幅10mの大きさを確保しています。

防火樹林帯

- 延焼防止のため公園の外周部には、燃えにくい常緑樹木を植栽します。



マンホールトイレ(平常時/使用時)



かまどベンチ



自然エネルギー灯
(写真はイメージです)













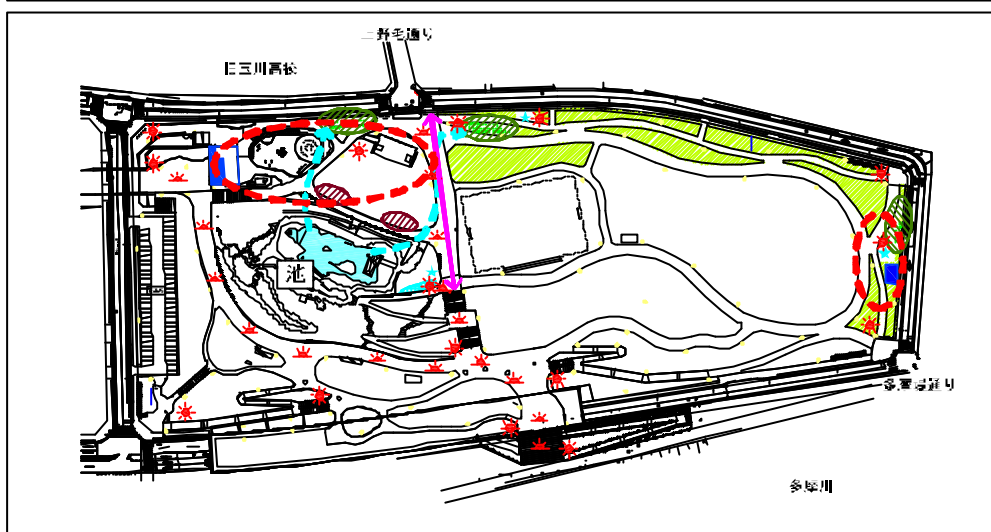
防災井戸

災害時の利用想定

平常時（防災施設）

防災資材の備蓄、消防訓練の場、防災学習の場として活用します。

-  活動拠点：2ヶ所
-  防災資材倉庫：2ヶ所
-  自然エネルギー照明：15基
(太陽光・一部風力併用)
-  誘導灯(舗装埋込)：1ヶ所/10m程度
-  防災井戸：3ヶ所
-  マンホールトイレ：60基
-  かまどベンチ：6基(かまど12個分)
-  消防訓練スペース：約100m
-  池 → 災害用水利：160m³
-  防火植栽帯


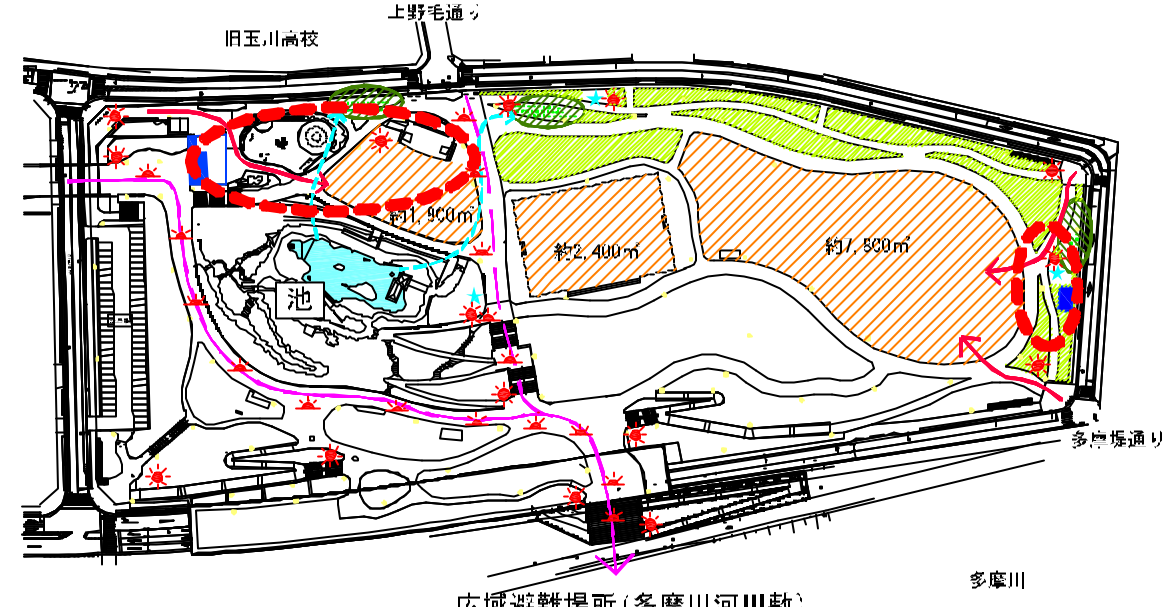
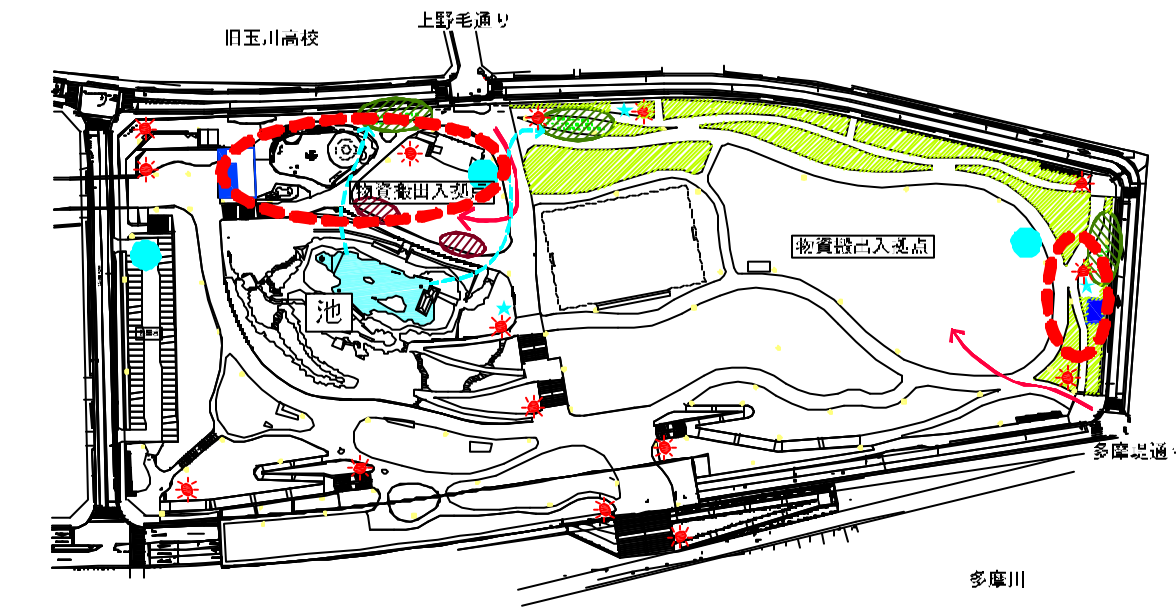
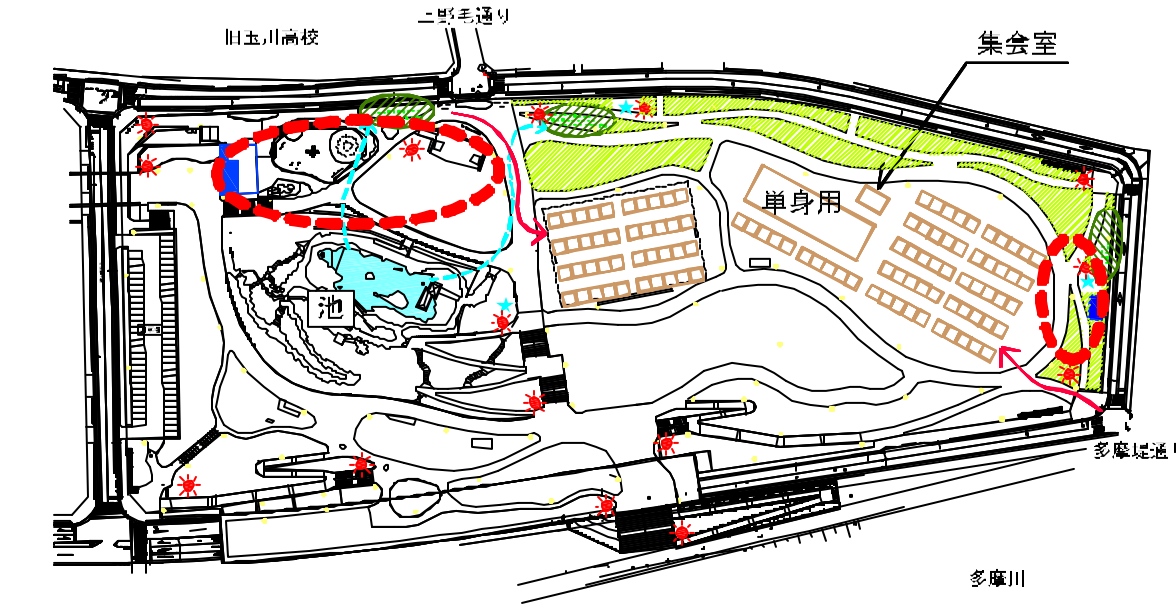


イ 豪雨対策（13頁の図面参照）

世田谷区洪水ハザードマップにおいて浸水が想定されていることもあり、流域における浸水対策に貢献できるよう次のとおり施設を充実させました。

下表の施設などで、公園に降った雨の流出抑制を図ります。雨水流出抑制量は、東海豪雨（世田谷区ハザードマップ全区版の想定豪雨）における時間最大雨量 114mm を抑制できるよう、1ヘクタール当たり 1,140m³の雨量の流出抑制を図ります。（世田谷区の基準は、1ヘクタール当たり 1,000m³）

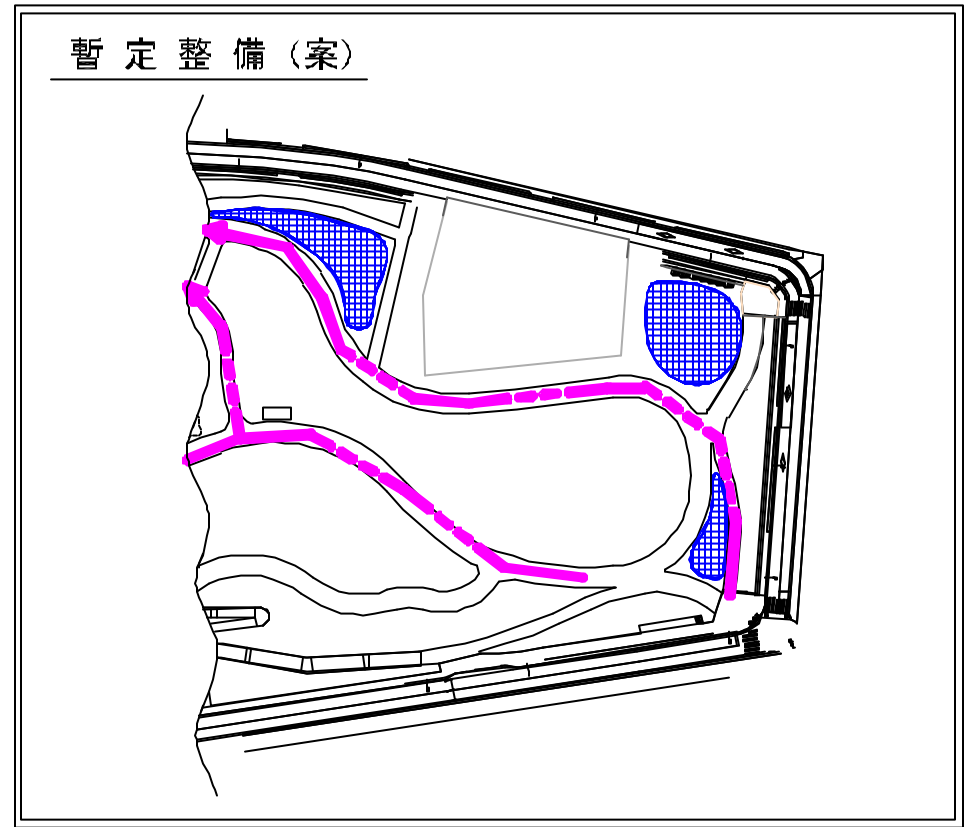
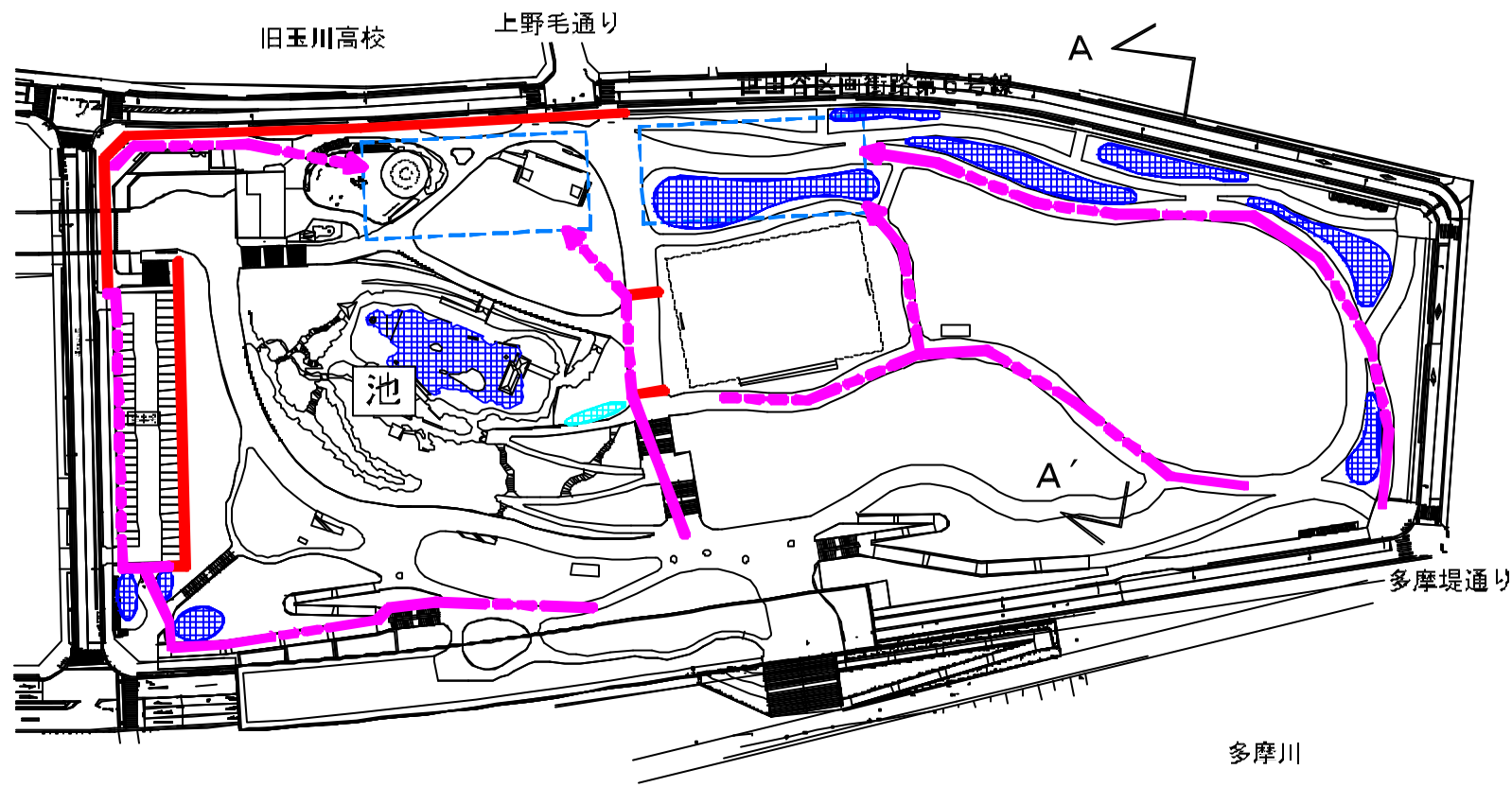
名称	対策量		備考 ()は暫定整備	
	全体完成	暫定整備(P6)		
貯留	雨水貯留槽	約 4,400m ³	約 4,400m ³	1,900m ³ × 2ヶ所+600m ³
	豪雨時貯留池	約 1,100m ³	約 1,100m ³	公園北東側外周の植栽地
	小計	約 5,500m ³	約 5,500m ³	
浸透	透水性舗装	約 280m ³	約 265m ³	舗装面積：約 13,700 m ² (13,250)
	浸透ます・管・溝	約 390m ³	約 375m ³	柵 103 個、管 336m、溝 150m
	小計	約 670m ³	約 640m ³	
緑化部分(自然浸透)	約 1,300m ³	約 1,200m ³	緑化面積：約 38,400 m ² (36,000)	
合計	約 7,470m ³	約 7,340m ³	各対策量は実施設計で確定します。	

 発災	設置施設／利用想定	対応施設、対応可能数	利用想定図
発災～ 3日目	避難・集合	<p>主に避難・待機の機能を確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 広域避難場所(多摩川河川敷)へのルート → 公園内への避難・集合ルート ☀ 誘導灯(舗装埋込)：1ヶ所/10m程度 ▨ 収容可能人数：10,000人(広場面積：約12,000㎡) ※暫定整備時(6頁参照)：5,000人(広場面積：約5,000㎡) ▨ 防火植栽帯 <p>(以下 発災後は継続的に使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動拠点：2箇所 防災資材倉庫：2箇所 ★ 防災井戸：3箇所 かまどベンチ：6基(かまど12個分) ☀ 自然エネルギー照明：15基(太陽光・一部風力併用) マンホールトイレ：60基 池 → 災害用水利：160㎡ 	 <p>旧玉川高校 上野毛通り 池 約1,900㎡ 約2,400㎡ 約1,500㎡ 多摩川 多摩堤通り 広域避難場所(多摩川河川敷)</p>
発災 4日目～ 3週間	炊き出し 給水拠点 物資搬出入拠点	<p>主に食料や水の配給、物資の配布等の機能を確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> かまどベンチ：6基(かまど12個分) ※必要物品：調理用具(なべ、食器、フォークなど) ● 給水車スペース：3箇所 □ 物資搬出入拠点：2箇所 → 物資搬入(大型車)ルート(出入口：上野毛通り、多摩堤通り 各1ヶ所) <p>(以下 発災後は継続的に使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動拠点：2箇所 防災資材倉庫：2箇所 ★ 防災井戸：3箇所 池 → 災害用水利：160㎡ ☀ 自然エネルギー照明：15基(太陽光・一部風力併用) マンホールトイレ：60基 ▨ 防火植栽帯 	 <p>旧玉川高校 上野毛通り 池 物資搬入拠点 物資搬入拠点 多摩川 多摩堤通り</p>
発災から 3週間以降	応急仮設住宅	<p>主に仮設住宅の建設地として利用します。 ※電気、上下水道の復旧時期</p> <ul style="list-style-type: none"> → 応急仮設住宅搬入ルート □ 応急仮設住宅：家族用100戸、単身用32戸、集会室1戸 ※暫定整備時(6頁参照)：家族用60戸、単身用32戸 <p>(以下 発災後は継続的に使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動拠点：2箇所 防災資材倉庫：2箇所 ★ 防災井戸：3箇所 池 → 災害用水利：160㎡ ☀ 自然エネルギー照明：15基(太陽光・一部風力併用) マンホールトイレ：60基 ▨ 防火植栽帯 	 <p>旧玉川高校 上野毛通り 池 集会室 単身用 多摩川 多摩堤通り</p>

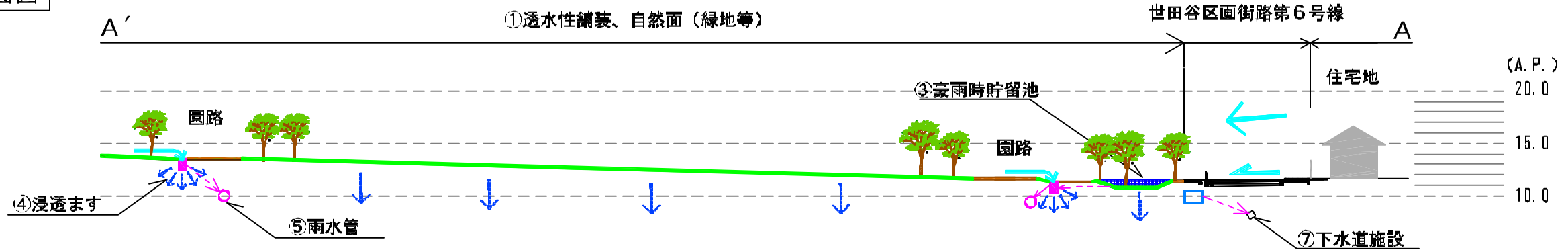
《豪雨対策》

豪雨対策平面図

<凡例> 雨水管（浸透管等）<地下> 豪雨時貯留池 浸透U形溝 雨水貯留施設<地下> 雨水浸透



A-A' 断面図



雨水処理の流れ（イメージ）

